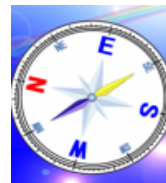




羅針盤



2012/11/7

NO. 56

〈編集・発行〉

東中3年進路指導部

《体験入学・見学情報》

○至学館高校（私立）再募集

◆日時 12/2(日) 午前 8:30～
午後 13:00～

◆内容 入試説明会

◆申し込み期限 11/20(火)まで

進路担当より

第3回の進路希望調査の結果を踏まえて、現在は教育相談が進んでいます。いろいろ悩むこともあると思いますが、この時期は現実をみて、じっくりと考える時期です。

そして、12月には私立の受験校が確定となります。今は自分が進学したら何がしたいのかを考えて見ましょう。

【難問】

「A高校とB高校とでは、どちらがレベルが高いですか？」

毎年必ずこんな質問が出ます。こんな時、どう答えればいいのか、正直なところ悩んでしまいます。おそらく「レベル」という言葉は、「入試で合格をもらうことの難しさ」を指しているのでしょう。しかし、「入試が難しい学校が、良い学校」と考えているとしたら、それは大きな間違いです。

確かに、「試験に難しい学校」に合格できたら、友達にも親戚にもカッコイイでしょう。でも、合格発表の後に続く3年間の学校生活を考えたとき、そうした「入試の難しさ」で学校を選ぶことは、真剣な姿勢で進路を考えているとはいえないのです。

「レベル」については話すけれど、その学校で行われている授業や行事について何も知らない人。また、その学校がどこにあるのかさえ知らずに「あの学校のレベルは…」なんて言っている人。家族や友達の話の話を聞いただけで知っているような

気持ちになって、その学校の体験入学にすら行っていない人。このような人にとって「合格の難しさ」が進学先選択の基準になっているのであれば、その人の高校生活は何のためにあるのでしょうか。

各学校にはそれぞれ独自の教育方針や特色があります。大学進学に力を入れている学校、基礎的な学習定着に力を入れている学校、生徒の自主性を重んじる学校、部活動の盛んな学校…など。高校も専修学校も「レベル」というものさしで一列に整列しているようなものではありません。

学校選びの基礎となるのは、

「自分に合った3年間の学校生活がおくれるのはどこか」
という視点です。

私の進路選択

第8弾は、大竹先生です。

「先生、受験勉強しなくても合格できそうな高校はどこですか」

実に情けない進路相談である。三者懇談でそんな話が出れば、保護者としては顔から火が出るような思いになる。その場は平静を保っていた保護者も、自宅へ帰れば鬼に変身である。

日頃優しかったのに、どうしてこんなに怒るのだろう…。正直な気持ちを懇談会で言っただけなのに…。

本人に悪気はない。しかし、保護者としてはいたたまれない気持ちになる。

「努力して結果が出せないのはしかたがない。しかし、楽しんで人生を送ろうというその安易な気持ちが許せない」ということである。この年になって、納得の話である。

□やかましいとしか思えないが、あまりのパワーに負け、仕方なく勉強をしたおかげが、未来につながっているのかもしれない。

